

4th NSPICE Conference 開催

1. Conference 概要

2021年11月24日(水)、ウインクあいち(愛知県産業労働センター)において、4th NSPICE Conference を開催いたしました。前年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止したため、約1年半振りの開催となりました。今回のテーマは「SPICE で開発の基盤を確立し、継続的に改善しよう! — 機能安全、サイバーセキュリティ等の新たな規格要求に振り回されないために —」で、特別講演3件、一般発表5件の講演及び発表を実施いたしました。

今回はオンライン配信を併設し、79名(うち会場参加28名)に参加いただきました。オンライン併設は初めての取り組みであり、若干のトラブルはありましたが、活発な議論が行われました。

講演者/発表者による有用な発表、参加者の方々による積極的な議論、後援団体による支援などにより、本カンファレンスを成功裏に終えることができ、たいへん感謝しております。

【開催挨拶】

先日、スウェーデン王立科学アカデミーは、「地球の気候と地球温暖化の予測に関する物理モデルへの貢献」により、真鍋淑郎・米国プリンストン大学 上席研究員ら3名にノーベル物理学賞を授与しました。これは、二酸化炭素(CO₂)の増減が気温に影響して引き起こされる地球温暖化の現象を大気の大気対流などを考慮したコンピューター解析により予測する気候モデルの考案によるものです。半世紀以上にわたる継続的な研究の成果がノーベル賞の受賞という素晴らしい形で結実しました。半世紀前の最先端コンピューターの処理速度は、現在の十万分の一しかなく、地球上の気象という複雑な対象を地上から空までを細長い円筒に見立て(複雑で立体的な世界を単純な直線の動きに見立て)、解析に用いるパラメーターを本当に必要な要素だけに絞り込み、解析時間を大幅に短くする工夫がなされたようです。ここで大事なことは、複雑な自然現象を単純化してモデルにする際、本当に重要な要素を見逃さなかったことです。この「本質をとらえて単純化する」というポイントは、SPICE (Software Process Improvement and Capability dEtermination) を用いたプロセス改善により、業務のムダを省き、製品またはサービスの価値を上げることに役立つのではないのでしょうか。

近年、世界的な気象変動の影響で猛烈な台風の発生や長期に亘る大雨が頻発し、世界のあちらこちらに甚大な被害をもたらしています。ノーベル賞を受賞した真鍋氏らの研究が、頻発する猛烈な台風や長期に亘る大雨の抑制に役立てられることを切に願うばかりです。

本カンファレンスは2017年に名古屋にて第1回を開催し、毎年開催して参りました。昨年は対象をアジア地域に拡大し、1st Asian SPICE Conference として開催する予定でしたが、日本のみならずアジア地域でもコロナウイルス感染拡大が続いており、開催を断念せざるを得ませんでした。第4回となる本カンファレンスでは「SPICE で開発の基盤を確立し、継続的に改善しよう!」と題し、開発する製品またはサービスに対して時代が求める様々な要求(セーフティ、セキュリティ、ディペンダビリティなど)に向き合う上で、新たな規格要求に振り回されない基盤づくりに役立つ特別講演および一般発表を多数ご用意しました。ご自身や貴組織が抱える問題解決の参考になれば幸いです。

【開催概要】

日程	2021年11月24日(水) 10:00~17:30
場所	ウインクあいち(愛知県産業労働センター)
主催	日本 SPICE ネットワーク (NSPICE.NET)
後援	独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) International Assessor Certification Scheme (intacs) 日本 SPI コンソーシアム (JASPIC) 一般財団法人 日本科学技術連盟 (JUSE) 一般社団法人 JCOSE

【カンファレンススタッフ】

実行委員長 河野 文昭 (株式会社アドヴィックス)
プログラム委員 安倍 秀二 (株式会社エーアンドエスコンサルティング)
近藤 聖久 (DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社)
齋藤 幸裕 (ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ株式会社)
田淵 一成 (アセッサ・アカデミー株式会社)
萩原 一彦 (株式会社デンソー)
古田 健裕 (パナソニック株式会社)
室谷 隆 (TIS 株式会社)

2. 発表内容

2.1 特別講演

S-1 宇宙機システムのイノベティブなアプローチ (海外から学ぶ)

– MIT Designed for Digital からの Lessons Learned –

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

片平 真史 氏

S-2 複雑化するシステムにおけるアイテム定義の考え方

– 機能安全の新たな規格要求に振り回されないために –

本田技研工業株式会社

落合 志信 氏

S-3 車載電子システムの多機能化／複雑化／クロスドメイン化に対する開発基盤構築への Automotive SPICE 活用
スズキ株式会社

杉村 嘉秋 氏

2.2 一般発表

A-1 部門の能力を結集した組織の品質文化への取り組み

– ISO/SAE21434 プロセス適用と人材育成の早期達成 –

日本電気通信システム株式会社

坂本 香理 氏

日本電気通信システム株式会社

羽田 裕 氏

A-2 DX アプローチによるプロセス記述

– プロセス記述の効率化、品質および使用性向上に向けた取り組み –

株式会社デンソークリエイト

池永 直樹 氏

A-3 テストプロセス基礎の基礎

C&BIS 株式会社

蔡 光浩 氏

A-4 UN-R156 ソフトウェアアップデート法規における Automotive SPICE 活用

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

溝口 誠一郎 氏

A-5 Lean Enablers for Automotive SPICE 活用のススメ

株式会社ティアフォー

土屋 友幸 氏

DNV ビジネス・アシュランス・ジャパン株式会社

宮崎 靖一 氏

3. 表彰 (Best Presentation Award)

「DX アプローチによるプロセス記述」

株式会社デンソークリエイト

池永 直樹 氏

参加者からのアンケート結果に基づく審査の結果、一般発表 5 件の
中から Best Presentation Award を選定し、表彰しました。

